

## Press Release (H27/10/14)

本学工学部附属インフラマネジメント技術研究センターが  
公益社団法人日本工学教育協会 工学教育賞（業績部門）を受賞

### 【受賞内容】

本学工学部附属インフラマネジメント技術研究センターによる「産官学協働の地域密着型インフラ維持管理技術者の育成」の取り組みが、公益社団法人日本工学教育協会第19回（2014年度）工学教育賞（業績部門）を受賞しました。

今後重要な問題となってくることが予想される社会インフラの劣化について、地域密着型の社会人教育の実践を通して社会貢献を果たしている点が高く評価され受賞に至りました。

公益社団法人日本工学教育協会は、我が国における工学教育の振興をはかり、産業発展に寄与することを目的としており、広く日本全国の工学系高等教育機関において、先導的、革新的の試みによって工学教育の発展に多大の刺激と貢献を与えた波及性に富んだ業績に対して工学教育賞を贈呈しています。

### 【受賞に至ったポイント】

- ・近年注目されている橋やトンネルなどのインフラの維持管理を担う技術者不足に着目し、平成20年度から維持管理技術者の育成事業（社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座）を継続している。
- ・社会人技術者に対し、インフラの維持管理に関する高度な技術と見識を修得する講座を継続して開講している。
- ・官公庁等土木技術者（行政技術者）ならびに建設業界技術者（民間技術者）の両者が20日間（連続4週間）、同一の講義を受講する環境を整備した。行政の技術者と民間の技術者が同じ教室で同時に同じ講義を受けることが本講座の特長の一つである。
- ・産官学協働のME養成ユニット運営協議会を設置し、育成すべき人材の技術レベルと知識レベルについて話し合い、ME養成講座の実施に反映している。

- ・すべての講座を受講（修了）したうえで、試験に合格した技術者をMEと認定している。ME養成講座は、岐阜大学の履修プログラムとして実施されている。
- ・岐阜県および国土交通省中部地方整備局等の協力のもと、ME認定者の活躍の場が整備されてきたことで、MEの認知度は全国的なものになってきた。

#### 【受賞業績の概要】

工学部附属インフラマネジメント技術研究センター（以下センター）は、履修証明プログラムとして「社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座」を開講している。養成講座では、行政と民間それぞれの組織の技術者が、4週間の短期集中カリキュラムで構成される所定の科目を履修することにより、共通の高度な知識を持ったインフラ維持管理の総合技術者を養成する。履修証明プログラム修了後、別途実施される「ME認定試験」に合格するとMEに認定される。MEは、新たな社会資本の整備、既存社会資本の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し、地域の活性化に貢献する人材である。

普段の業務であれば行政側と民間側という一歩離れた関係である両方の技術者が、本講座では、同じ講義を聴き、フィールド実習ではともに構造物の点検を行い、気がついたことを議論し、意見交換して情報を共有する。このようなコミュニケーションを通じて、「自分たちの地域のインフラを守る」ための共通認識を構築し、実務の遂行時の協力関係も深めることが可能となっている。

平成20年度からこれまでに、13回の養成講座を開講し、276名のMEが認定された。ME認定者は、同窓会的組織「MEの会」を組織し、岐阜県内を5つの地域部会に分けて、より地域に密着した活動を行っている。MEの会では、岐阜大学八嶋厚教授監修の下、専門性の高い技術を世間一般の人でも理解しやすいように編集した技術解説本「社会基盤メンテナンス手帳～ME君の点検十訓～」を2010年3月に出版している。

高齢化していくインフラを健全に保つには、管理者と建設業者の垣根を取り払い、ともに総合技術者としてネットワークを構築するとともに、地域の方々の協力が不可欠である。平成25年度からは、同じ志を持つ長崎大学・愛媛大学・山口大学・長岡技術科学大学等とも連携し、地域に根ざすインフラ管理技術者の育成を全国的に拡充している。国の最重要課題の一つである技術者育成の地方展開により、地域の安全安心に貢献している。

#### 【本件に関する問い合わせ先】

所属：工学部附属インフラマネジメント技術研究センター  
氏名：センター長・教授 沢田和秀  
電話：058-293-2422  
E-mail：sawada@gifu-u.ac.jp